

禅宗寺院の厳肅な雰囲気醸し出す



洞松寺本堂・開山堂及び位牌堂・禅堂及び接賓ほか



本堂



禅堂及び接賓

指定区分	国登録有形文化財(建造物)
読みかた	どうしょうじほんどう・かいざんどうおよびいはいどう・ぜんどうおよびせっぴんほか
所在地	矢掛町横谷
指定年月日	平成23年7月25日
解説	境内奥に建つ本堂の前庭を囲み、向かって右手に衆寮(しゅうりょう)、左手に僧堂を配置する、正統的な禅宗伽藍(がらん)を構える曹洞宗寺院である。本堂は六間取方丈(ほうじょう)形式で、内陣と大間に折上天井を張るなど、堂の中心として意匠を凝らし、内陣後方には位牌堂を介して開山堂を配する。本堂右手に接する方丈及び書院は座敷や茶室をもつ施設で、その手前に大型の庫裏(くり)を連ねる。本堂左手には鐘楼(しょうろう)を建て、その手前の禅堂及び接賓は、本堂寄りに禅僧の宿所である接賓、前寄りを禅堂とする大型の堂で、庫裏と対峙して建つ。また禅堂の北側には住職の住まいである書院月泉院(げっせいいん)が土塀に囲まれた一郭をなすほか、禅宗寺院の結界(けっかい)を象徴する水路や二ノ門なども含めて、江戸時代中期から順次整えられた伽藍全体がよく残り、禅宗寺院の厳肅な雰囲気を醸している。
アクセス方法	井原鉄道井原線三谷駅から徒歩約30分
公開状況	外観のみ
設備	トイレ  駐車場 
備考	平成21年6月から禅の修行道場となっており、僧侶等が常時修行弁道していることから、修行の中心となる禅堂の公開はしておりません。また、本堂・開山堂も行事中の拝観はできません。なお、毎月月末頃の摂心会修行中は境内への立入はできませんので御了承ください。